

第52回日本臨床細胞学会
バーチャルスライドカンファレンス
解答
「CASE 5」

四国がんセンター 臨床検査科・病理科
香川昭博 寺本典弘

病理診断名

Carcinoma showing thymus-like elements
(CASTLE: 胸腺様分化を示す癌)

胸腺様分化を示す癌 (CASTLE)

胸腺上皮性腫瘍に類似した腫瘍であり、多くは甲状腺下極に発生する。かつては甲状腺内胸腺腫intrathyroidal thymomaと呼ばれていた。組織学的には腫瘍細胞は島状構造を示し、間質は緻密な線維結合織よりなる。腫瘍全体にリンパ球、形質細胞浸潤が観察される。核小体の目立つ大型の核を有する多角形あるいは紡錘形細胞より構成されるが、細胞境界は不明瞭である。扁平上皮への分化傾向もしばしば認められる。胸腺癌と同様、免疫組織化学的には、CD5が陽性である。

(第6版甲状腺癌取り扱い規約より)

症例

20代 女性

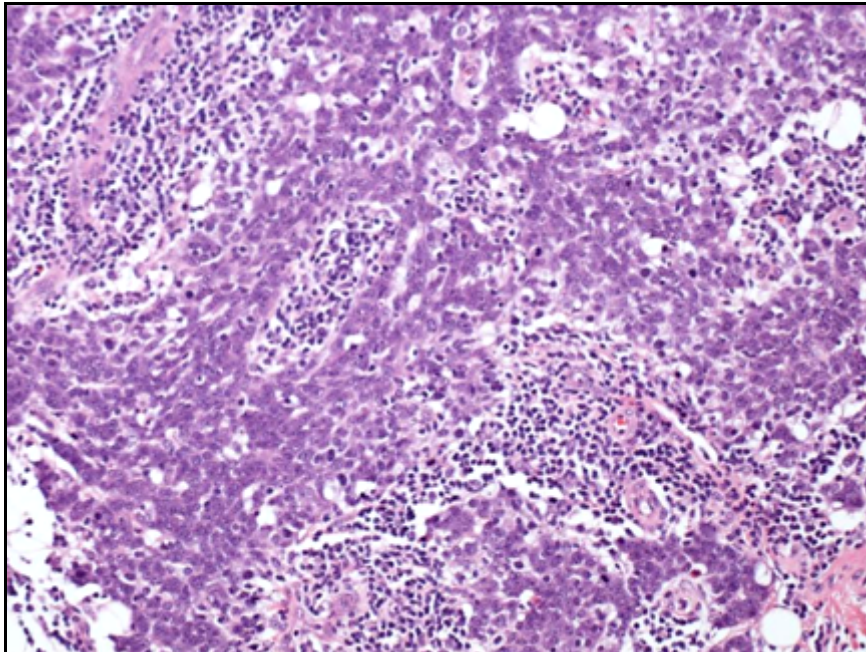
病歴等

左頸部の腫脹にて、当院紹介となる。
CTにて頸部に3cm大の腫瘍が認められ精査目的で穿刺吸引細胞診を施行する。
周囲のリンパ節生検では転移性の低分化な癌が見られ生検から2か月後、腫瘍切除のため左頸部廓清、左乳突筋切除術が施行された。

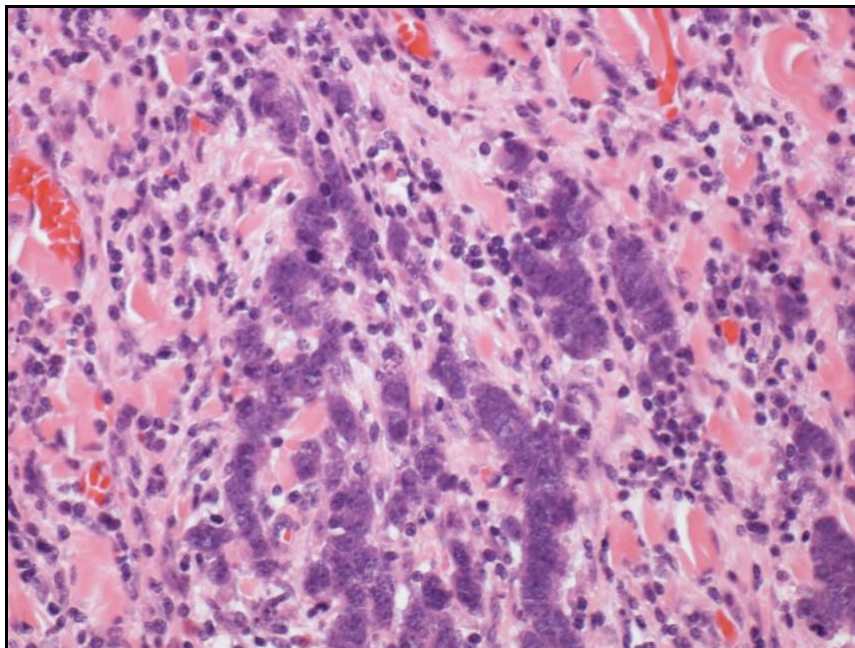
左頸部病変断面



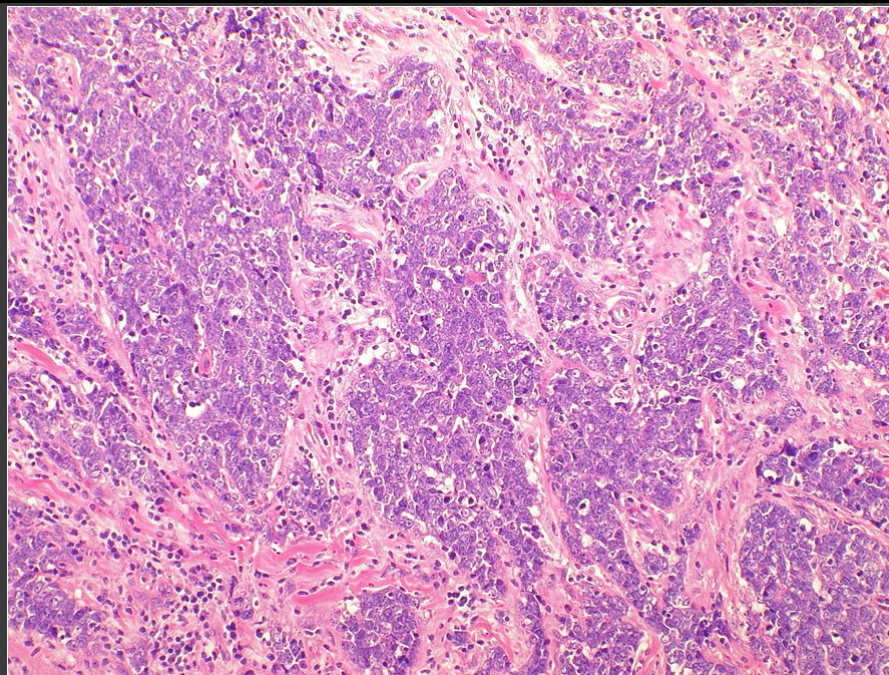
境界の不明瞭な黄白色の病変を認める。壊死領域や著明な出血巣は認めない。



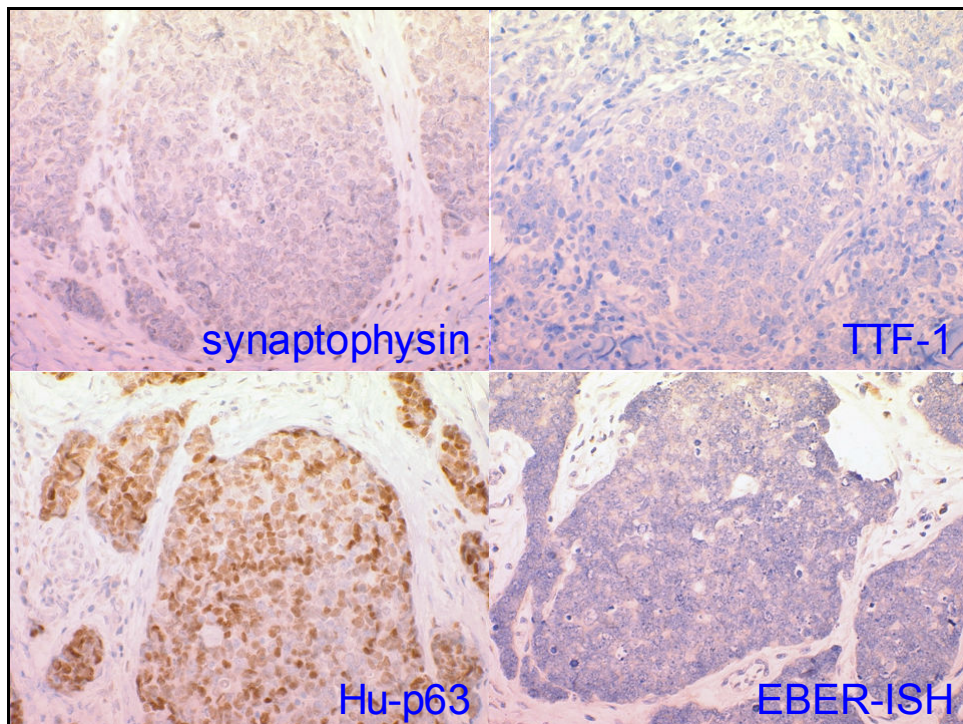
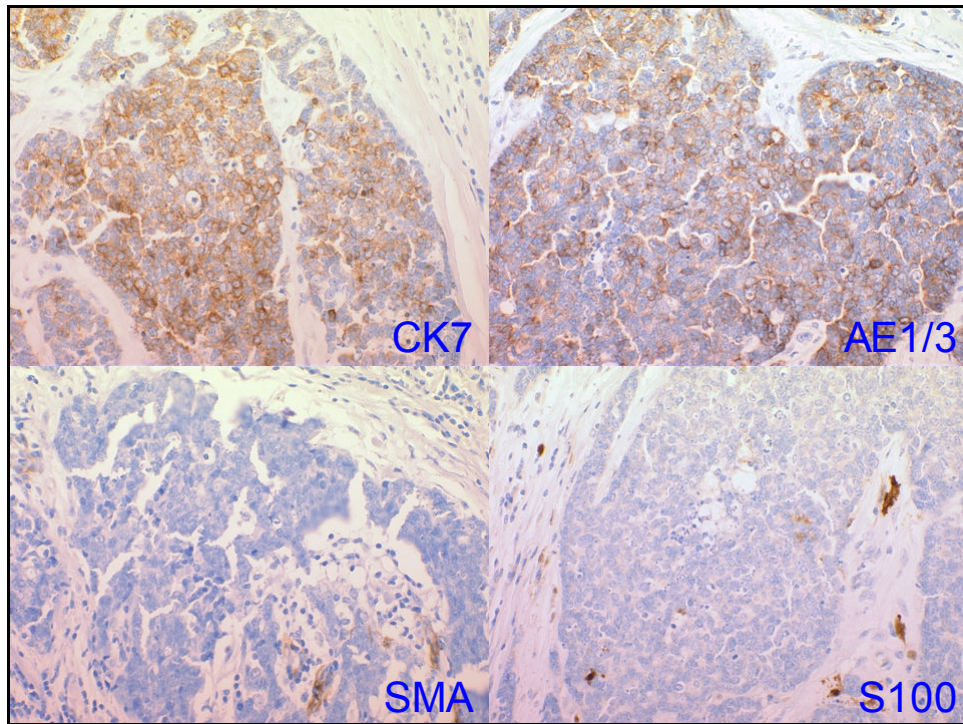
やや結合性の低いシート状増生を示す癌。角化傾向・腺管構造・濾胞形成などは見られない

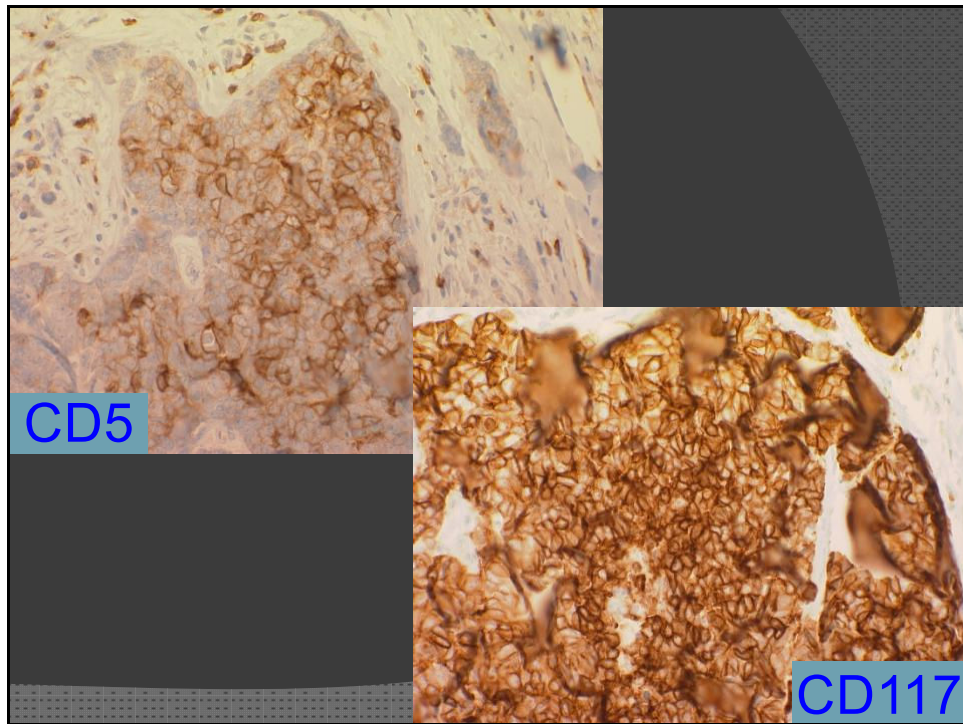


腫瘍細胞の細胞境界は不明瞭。リンパ球の浸潤が目立ち、two-cell patternをとる。腫瘍は索状配列を示し、間質には硝子様線維化をとる。



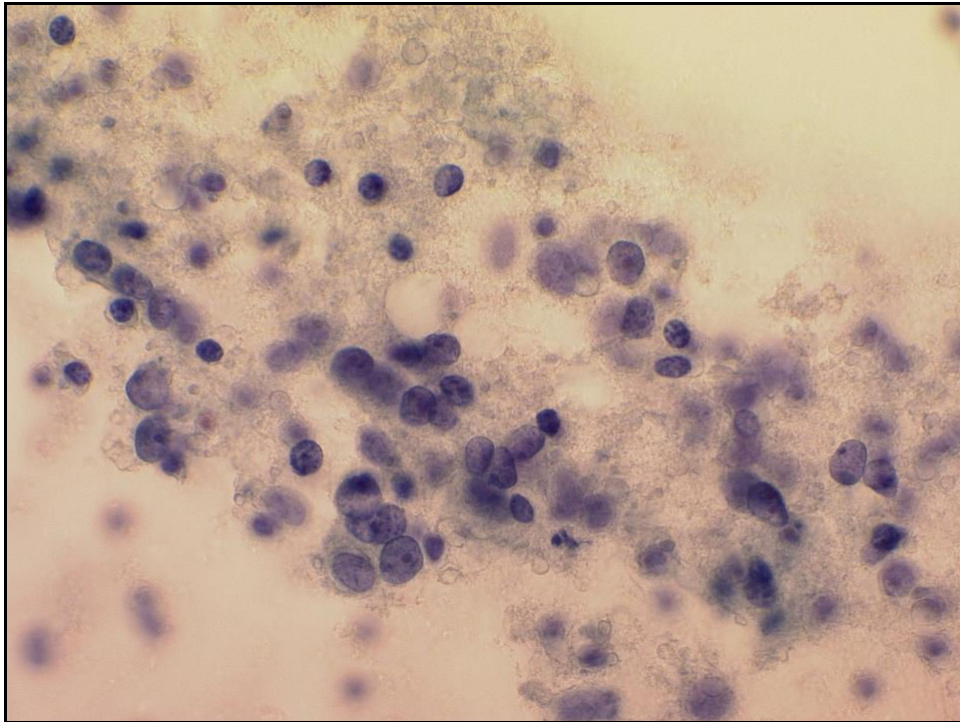
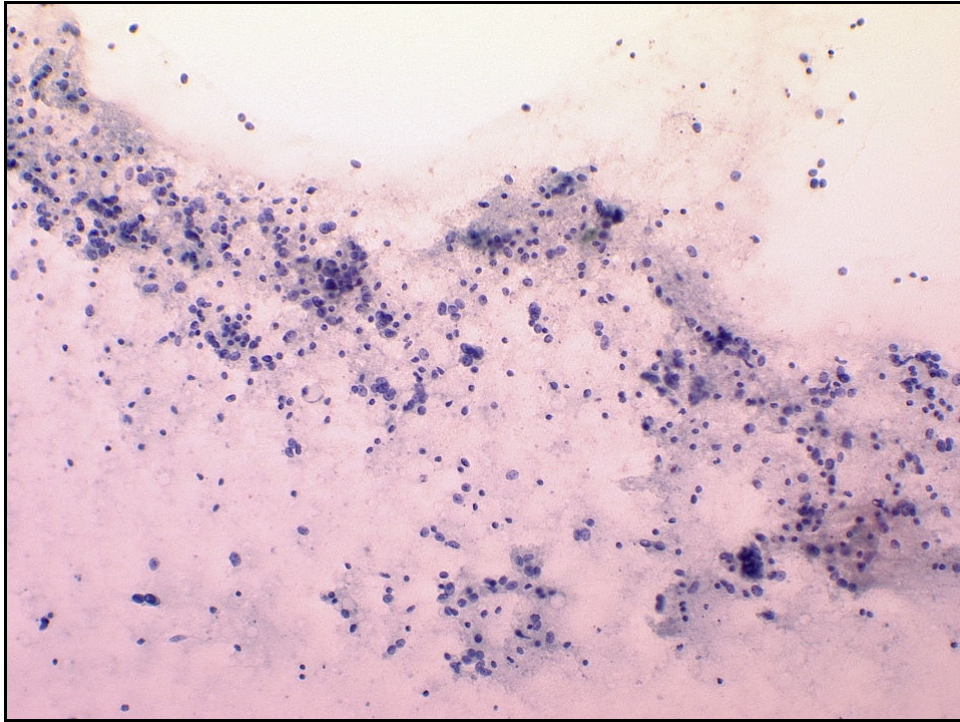
一部では扁平上皮癌に近い形態を示す部分も見られた。

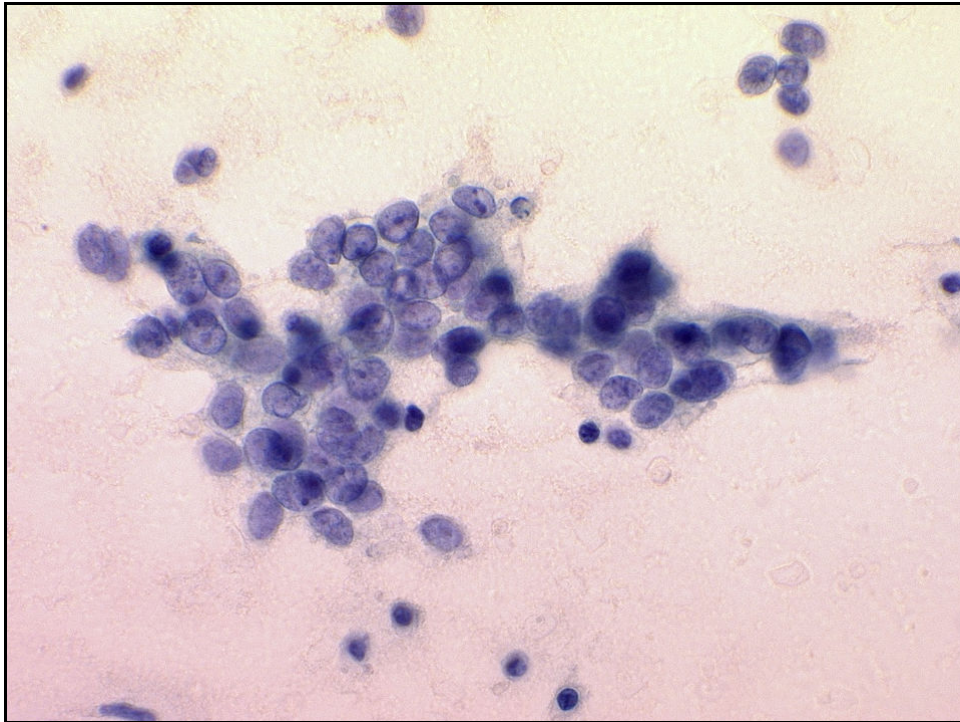
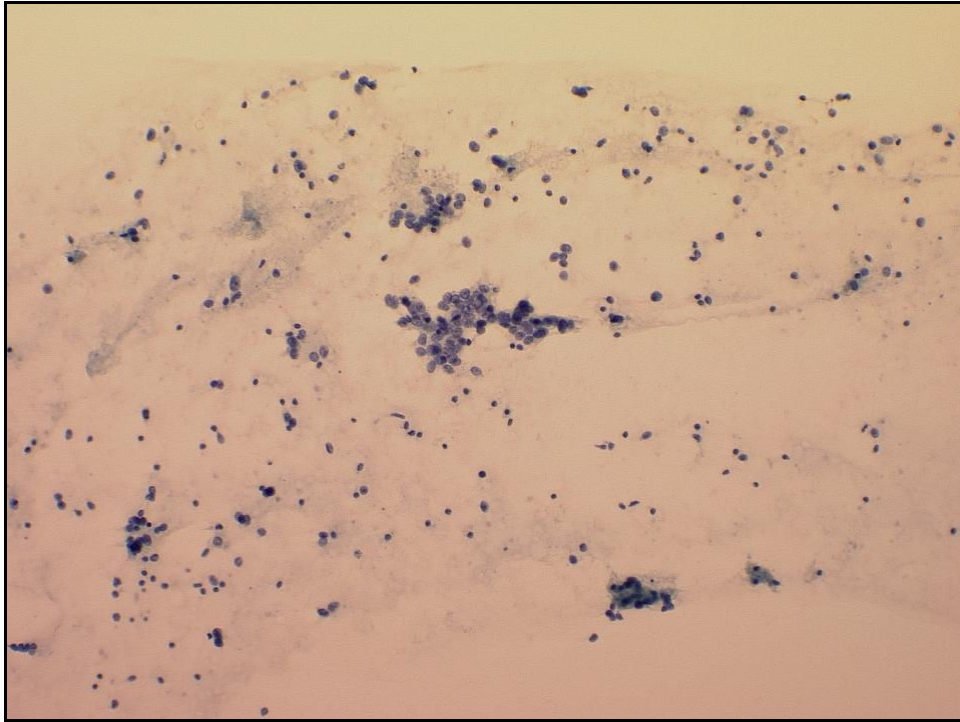




免疫染色結果

CK7(+)	ChromograninA(-)
CK20(-)	Synaptophysin(-)
CKAE1/3(+)	CD56(-)
EMA(+)	CD5(+)
CEA(+)	CD117(+)
α -SMA(-)	Hu-p63(+)
S-100(-)	EBER-ISH(-)
Vimentin(-)	
HMB45(-)	
TTF-1(-)	





細胞所見のまとめ

- ・ 小型から中型の裸核状の腫瘍細胞
- ・ 核は微細顆粒状、緊満感あり、核小体が目立つ
- ・ 緩い上皮性結合の細胞集塊
- ・ リンパ球と上皮のtwo cell pattern
- ・ 間質浸潤を思わせる楔状配列

鑑別診断

① (Large cell) neuroendocrine carcinoma

比較的大型の細胞が豊富に採取される。細胞集塊が柵状配列や木目込み配列、ロゼット様構造を示すことがある。神経内分泌系のマーカーが陽性。

② malignant lymphoma

Diffuse large B-cell lymphomaが多い。裸核状の異型細胞が単調にみられ成熟リンパ球は目立たない。

③ 転移性上咽頭癌 (Lymphoepithelial carcinoma)

大型細胞よりなる未分化癌で、著明な非腫瘍性リンパ球浸潤を伴う。CASTLEに類似した細胞像を呈する。EBER-ISHが陽性。CD5は陰性

④ Follicular tumor

核腫大を伴った濾胞上皮細胞が小濾胞構造を呈して見られる。細胞異型の程度は様々であるが多彩性はない。コロイドを伴う。

⑤ 転移性Squamous cell carcinoma

分化の程度により細胞の形態は様々であるが背景には壊死物質とともに好中球を見ることが多い。

⑥ Spindle epithelial tumor with thymous-like differentiation(SETTLE)

紡錘形細胞が主体。腺上皮を交える。

胸腺様分化を示す癌

- 年 齢：25—69歳（多くは40歳代）
- 性 差：なし
- 発生部位：甲状腺（下極）、頸部軟部組織
- 病理所見：胸腺癌に類似、扁平上皮への分化、リンパ球浸潤、線維性の間質増生
- 免疫組織化学：cytokeratin(+)、CD5(+)
- 治 療：手術による切除、放射線
- 経 過：約半数で局所再発または遠隔転移

まとめ

本症例の腫瘍は、免疫染色の結果よりCASTLEと診断された。

CASTLEは主に甲状腺に生じる腫瘍である。本症例の腫瘍は甲状腺とは連絡がなかったが、同様な組織像で頸部軟部組織に発生したのもCASTLEとされる。

本症例は頸部軟部組織の異所性胸腺組織から発生した腫瘍であった。

謝 辞

本症例の診断について、東京医科大学診断病理学講座 長尾俊孝先生のご助言をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。